

清元市長の演説（2020年4月22日）

現在、姫路市内の医療機関においては、献身的な医療を提供いただいておりますが、市内において新型コロナウイルス感染症は収束しておりません。

緊張感を持って、診療に従事していただいている医師、看護師、スタッフの方々に心より感謝申し上げます。

- ひとたび、陽性者が確認されると、保健所は積極的な調査を行い、濃厚接触者を特定し、自宅待機を要請する。
- 濃厚接触者の基準は、「同居」「感染対策なしに診療を行った」「1メートルの距離で15分以上の接触があった」など具体的に定義されている。
- マスクで防御して、新型コロナウイルスの患者さんを診療しても、濃厚接触者には当たらない。
- 姫路市内において陽性患者が受診した医療機関では十分な対策をとっており、医療従事者の方々は濃厚接触者に該当しない。
- にもかかわらず、陽性患者が受診した、または入院している医療機関の関係者というだけで、保育等の施設の利用を断られるという現状があると聞いている。
- 医療機関の皆さんは、自分も感染するかもしれないという不安を持ち、しかし、自分たちが治療に当たらなければ、患者さんの命が守れない、地域の感染拡大を防げない、その強い思いで診療や看護にあたっている。
- もし、医療機関の皆さんが、周囲からの風評被害を恐れて、出勤できなくなれば、適切な医療が提供されず、今もっとも懸念されている医療崩壊を招きかねません。
- だれもが新型コロナウイルスに感染するリスクを持っている。一部の方々がSNS等で行っている流言飛語、デマの拡散は、自分にも降りかかる災いとなるかもしれない。
- 行政もしっかり医療機関を支えます。姫路市民の皆さんも正しい認識を持って、一丸となって医療機関を応援していただきますようお願いする。
- その意味も込めて、姫路城をブルーにライトアップしている。青い姫路城を見るたびに、医療の現場で奮闘されている皆さんへ、感謝の気持ちをあらわしてください。

今、戦うべきはコロナウイルスです。これからも感染拡大を防ぐため、3つの「密」を避け、慎重に行動していただきますようご協力をお願いいたします。